

運用実績

基準価額	24,445円	前月末比	▲185円	純資産総額	17.12億円
------	---------	------	-------	-------	---------

※基準価額は信託報酬控除後の値です。

ファンド設定日：2012年1月23日

基準価額等の推移

資産構成（単位：百万円）



ファンド	金額	比率
投資信託証券	1,624	94.9%
為替ヘッジ評価損益	13	0.8%
現金等	73	4.3%

※比率は純資産総額に対する割合です。
※現金等には未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

※基準価額は、信託報酬控除後の値です。
※税引前分配金再投資基準価額は、本ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算しています。
※当ファンドの設定日前日を10,000として指数化しています。

期間収益率

設定来	1 カ月	3 カ月	6 カ月	1 年	3 年	5 年
144.45%	-0.75%	-1.60%	-1.46%	3.34%	21.67%	54.46%

※期間収益率は税引前分配金を再投資したものと算出した税引前分配金再投資基準価額により計算しています。

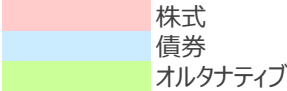
収益分配金（税引前）推移

決算期	第9期	第10期	第11期	第12期	第13期	設定来累計
決算日	2020/9/14	2021/9/14	2022/9/14	2023/9/14	2024/9/17	
分配金	0円	0円	0円	0円	0円	

※収益分配金は1万口当たりの金額です。
※分配金は過去の実績であり、将来の分配金の水準を示唆・保証するものではありません。

追加型投信／内外／資産複合

組入投資信託証券の状況



投資対象	投資信託証券の名称	通貨	組入比率
国内株式	iシェアーズ・コア TOPIX ETF	円	11.4%
先進国大型株式	BNY Mellon米国大型コア株式ETF	米ドル	2.7%
先進国大型株式	SPDR ポートフォリオ・ヨーロッパ ETF	米ドル	0.8%
先進国株式	バンガード・FTSE ディベロップド・アジア・パシフィック（除く日本）・UCITS ETF	米ドル	0.1%
新興国株式	SPDR ポートフォリオ 新興国株式 ETF	米ドル	5.5%
先進国小型株式	SPDR ポートフォリオ S&P 600 小型株式ETF	米ドル	1.1%
先進国・新興国小型株式	バンガード・FTSE・オールワールド（除く米国）スモールキャップETF	米ドル	0.8%
国内債券	MUAM 日本債券インデックスファンド（適格機関投資家限定）	円	14.3%
先進国債券	MUAM 外国債券インデックスファンド（適格機関投資家限定）	円	19.1%
新興国債券	バンガード・米ドル建て新興国政府債券ETF	米ドル	13.6%
ヘッジファンド	★ NYLI ヘッジ マルチストラテジー トラッカーETF	米ドル	2.7%
コモディティ（主に原油）	★ インベスコ・ブルームバーグ・コモディティ UCITS ETF	米ドル	3.6%
コモディティ（金）	★ iシェアーズ・ゴールド・トラスト・ミクロ	米ドル	15.6%
先進国リート	シュワブU.S.リートETF	米ドル	3.5%

★NYLI ヘッジ マルチストラテジー トラッカーETF は、2024年 8 月28日をもって IQ ヘッジ マルチストラテジー トラッカーETF から名称変更となりました。

★ヘッジファンドとコモディティを投資対象としているETFに対し、為替ヘッジを高位に行います。

※組入比率は純資産総額に対する割合です。

※各比率の合計が四捨五入の関係で投資信託証券（組入資産の状況）の比率と一致しないことがあります。

為替変動の影響を受ける割合

比率	30.0%
----	-------

※比率は純資産総額に対する割合です。

※外貨建資産のうち、為替変動の影響を受ける割合を示しています。

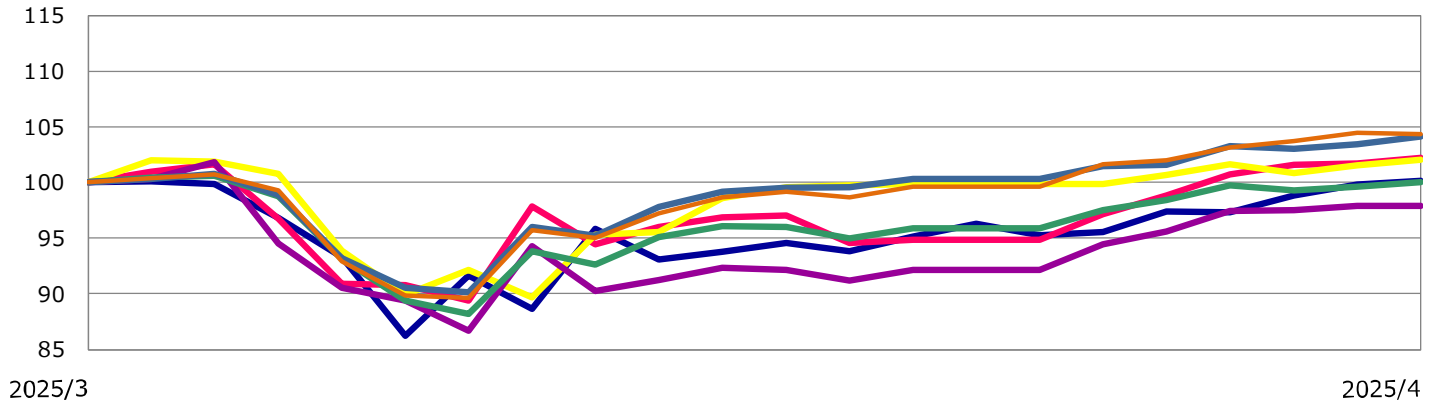
2025年4月30日基準

追加型投信／内外／資産複合

＜ご参考＞－当月の組入投資信託証券の推移－

株式

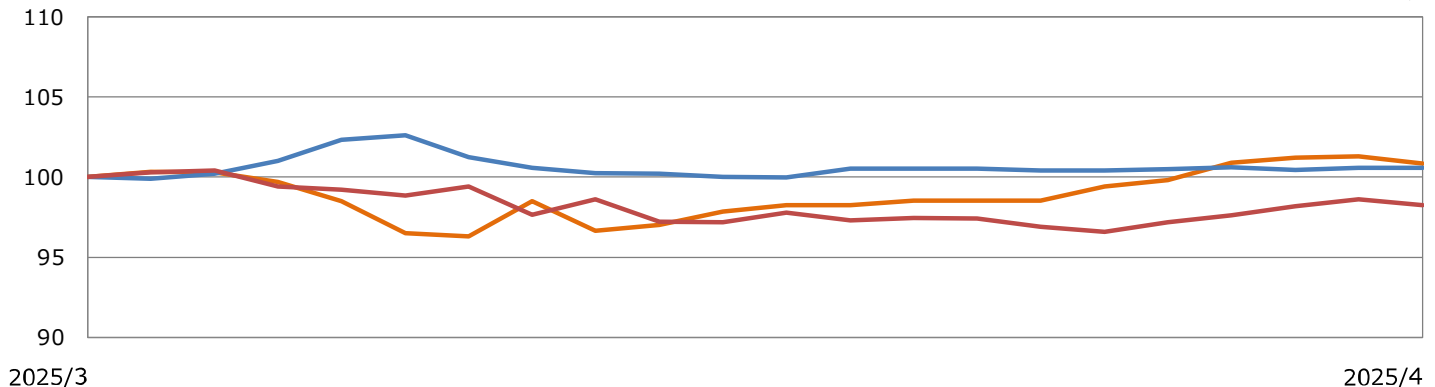
(前月末＝100として指数化)



■ iシェアーズ・コア TOPIX ETF
 ■ バンガード・FTSE ディベロップド・アジア・パシフィック（除く日本）・UCITS ETF
 ■ SPDR ポートフォリオ 新興国株式 ETF
 ■ SPDR ポートフォリオ・ヨーロッパ ETF
 ■ BNY Mellon米国大型コア株式ETF
 ■ SPDR ポートフォリオ S&P 600 小型株式 ETF
 ■ バンガード・FTSE・オールワールド（除く米国）スモールキャップETF

債券

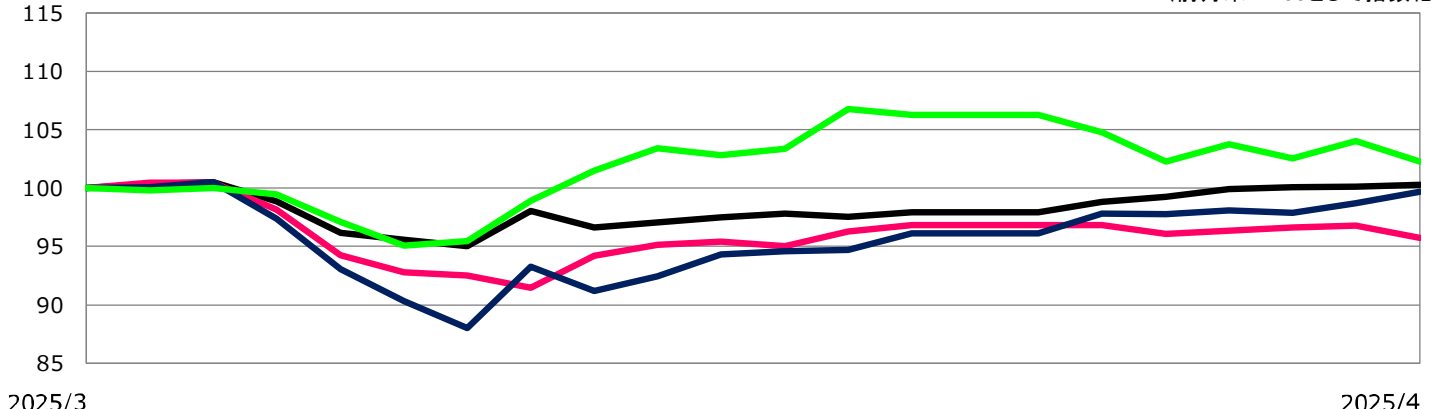
(前月末＝100として指数化)



■ バンガード・米ドル建て新興国政府債券ETF
 ■ MUAM 日本債券インデックスファンド（適格機関投資家限定）
 ■ MUAM 外国債券インデックスファンド（適格機関投資家限定）

オルタナティブ

(前月末＝100として指数化)



■ NYLI ヘッジ マルチストラテジー トラッカーETF
 ■ シュワブU.S.リートETF
 ■ インベスコ・ブルームバーグ・コモディティ UCITS ETF
 ■ iシェアーズ・ゴールド・トラスト・ミクロ

投資環境及びコメント

株式	日本	<p>4月の国内株式市場では、日経平均株価が前月末比1.20%、TOPIX（東証株価指数）が同0.32%といずれも上昇しました。</p> <p>前半は、トランプ米大統領が相互関税を打ち出し、輸出関連企業を中心に業績への影響が懸念される中、中国が報復関税を表明し貿易摩擦の激化が警戒されて急落しました。その後、トランプ米大統領が相互関税の一部の90日間停止を発表すると、急速に下げ幅を縮めました。</p> <p>後半は、円安是正圧力も警戒された初回の日米関税交渉を無難に通過したほか、日米財務相会談でも為替水準の目標等を要求されず、上昇しました。加えて、米中貿易摩擦に対する過度な警戒感が一時的に和らぎ、月末にかけて強含みで推移しました。</p>
	先進国 （除く日本）	<p>4月の海外株式市場で、米国のNYダウは前月末比▲3.17%下落しました。一方、欧州の独DAX指数は同1.50%上昇しました。</p> <p>前半はNYダウ、独DAX指数ともに大幅に下落しました。米トランプ政権が発表した相互関税が、市場の予想よりも広範な国・地域を対象とし、かつ厳しい内容となったことから、世界経済の先行きに対する警戒感が広がりました。中国の報復措置発表を受けて、米中貿易摩擦も懸念され、投資家のリスク回避の動きが強まりました。</p> <p>後半は、NYダウ、独DAX指数ともに上昇しました。トランプ米大統領の発言などから、米国と貿易相手国との関税交渉の進展に対する期待が広がりました。米中貿易摩擦が緩和するとの見方も浮上し、投資家心理が改善しました。独DAX指数では、ECB（欧州中央銀行）の利下げも支援材料となりました。</p>
	新興国	<p>4月の新興国株式市場は上昇しました。4月2日の米政権の相互関税発表を受けて景気悪化懸念が強まり大幅に下落した後、90日間の相互関税上乗せ分の適用猶予が発表され、下落幅を縮小しました。その後、米中貿易紛争激化への懸念が高まったものの、ドル安進行が新興国資産の支えとなり、上昇しました。月末にかけては、対中関税引き下げ示唆など緊張緩和に向けた動きなどから上昇しました。</p>
債券	日本	<p>4月の国内債券市場は、新発10年物国債利回りが前月末の1.485%から1.310%へ低下（債券価格は上昇）しました。</p> <p>前半は、月初に発表された米国関税政策が市場の想定よりも厳しい内容であったためリスクオフの展開となり、10年国債利回りは低下しました。その後、低調な入札結果などを背景に低下幅を縮小しました。後半は、金利の低下基調が一時強まるも、株式市場が落ち着きを取り戻し、日銀の金融政策決定会合を月末に控える中、リスク回避の動きが和らぎ、10年国債利回りは低下幅を縮小しました。</p>
	先進国 （除く日本）	<p>4月の海外債券市場では、米国10年国債利回り、独10年国債利回りともに低下（債券価格は上昇）しました。</p> <p>米国では、前半は、トランプ米大統領の大幅関税引き上げの発表を受け、リスク回避の動きにもかかわらず米債売りが進み、金利は上昇しました。その後、相互関税で電子機器が対象外とされたことなどから金利は低下しました。後半は、米中貿易紛争が緩和に向かうとの期待から、金利は低下しました。</p> <p>欧州では、前半は、トランプ米大統領の大幅関税引き上げの発表を受け、ECB（欧州中央銀行）の利下げ期待が高まる中、金利は低下しました。後半は、ECBが4月理事会で利下げを決定したことに加え、今後の利下げ期待が高まり金利は低下したものの、その後は米関税や経済指標などの強弱材料が入り交じる中で、もみ合いで推移しました。</p>

※株式・債券（日本・先進国（除く日本））、オルタナティブ（REIT）はウエルスアッドバイザーのコメントを基にSBIアセットマネジメント作成。
株式（新興国）、債券（新興国）、オルタナティブ（ヘッジファンド、コモディティ）、為替は、SBIアセットマネジメント作成。

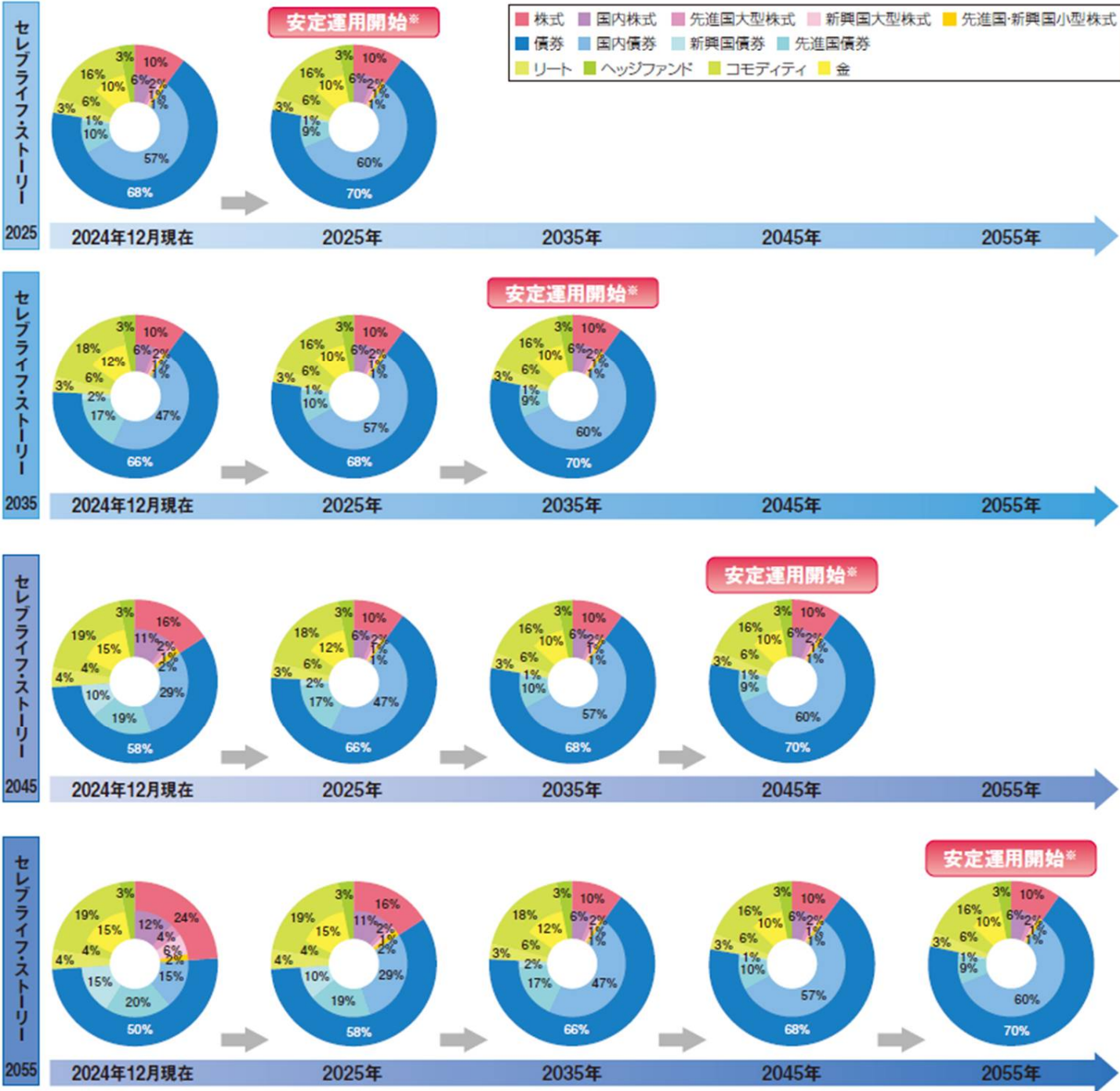
投資環境及びコメント

債券	新興国	<p>4月の新興国債券市場はほぼ横ばいとなりました。月初、新興国の国債（米ドル建て）のベースとなる米国国債は、米国トランプ大統領による相互関税発表を受けてインフレ懸念が高まり、金利が上昇、債券価格は下落しました。グローバルなリスク回避の動きが強まる中、新興国債券の信用スプレッドも悪化しました。その後、市場の混乱を受け、関税の90日間停止などトランプ大統領が緩和的な姿勢を示したことから、市場も落ち着きを取り戻し、米国金利は低下しました。また、信用スプレッドも縮小し、新興国債券市場は上昇に転じ、ほぼ横ばい水準となりました。</p>
オルタナティブ		<p>●4月の海外（米国）REIT（不動産投資信託）市場は下落しました。前半は、米政権の相互関税発表を受けて景気悪化懸念が強まり大幅に下落した後、中国以外について相互関税上乗せ分の適用猶予が発表され、下落幅を縮小しました。後半は、米国市場でリスク回避の動きが続く中、関税による直接の影響を受けにくい資産として米国REITが選好されたことに加えて、米長期金利の低下が好感されたことやリスク回避姿勢の後退などから上昇しました。</p> <p>●4月のロンドン金価格（ドル建て）は上昇しました。上旬は4月2日に米政権により相互関税賦課が発表されると、徐々に株式市場を中心に不安定性を増し、大幅下落したことで損失補填の売りが金相場にも広がり、下落しました。その後9日に一部地域に対する米国による上乗せ関税の90日間停止が発表されると、急速に反発しました。中旬は米大統領によるFRB議長の進退を示唆する発言により、ドルアセットが売られる展開となると、金相場に資金が流入し、月間最高値を22日につけましたが、対中関税引き下げ示唆など緊張緩和に向けた動きから株式市場が反転し、不透明感からの買いが解消され上昇幅を縮小させました。月末にかけては貿易交渉の行方をにらんで方向感の出にくい相場となりました。</p> <p>●4月のWTI原油先物価格は下落しました。上旬はOPECプラスが5月から増産ペースを加速させる方針を決定したほか、米国の相互関税が世界景気を悪化させるとの見方を受けて、投資家のリスクオフ姿勢が強まったことで下落しました。その後はOPECプラスが6月に増産ペースを加速させるとの観測が強まったほか、景気後退懸念を受けて原油需要の伸び悩みが意識されたことで下落しました。</p> <p>●4月のヘッジファンドのパフォーマンスは、全体としてややマイナスでした。戦略別では、米国トランプ大統領の相互関税発表、その後の米国回避の動きから、新興国市場への投資戦略がプラスになる一方で、米国債券や米国小型株など米国に投資する戦略がマイナスとなりました。</p>
為替		<p>4月のドルは、対円で下落しました。米国トランプ大統領による相互関税発表を受けて、グローバルなリスク回避の動きが強まり、ドルが売られ、一時140円近辺となりました。その後、トランプ大統領が緩和的な姿勢を示したこと、日米交渉で為替問題が取り上げられなかったことから、円買い一服となり、ドルが買い戻されました。</p>

※株式・債券（日本・先進国（除く日本））、オルタナティブ（REIT）はウエルスアドバイザーのコメントを基にSBIアセットマネジメント作成。
株式（新興国）、債券（新興国）、オルタナティブ（ヘッジファンド、コモディティ）、為替は、SBIアセットマネジメント作成。

追加型投信／内外／資産複合

基本投資割合



※各ファンドのターゲット・イヤーの決算日の翌日を「安定運用開始時期」とします。
※上記の図は、現時点で決定している基本投資割合であり、市況動向等によって組入比率等が変更される場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

本ファンドは、主として投資信託証券（投資対象ファンド）への投資を通じて、株式・債券・オルタナティブ資産（ヘッジファンド、コモディティ、リート（不動産投資信託））など値動きのある金融商品等に投資しますので、基準価額は変動します。また、外貨建資産には為替変動リスクもあります。したがって、本ファンドは投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割込むことがあります。本ファンドの運用による損益は全て投資者に帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。本ファンドの基準価額の変動要因としては以下のものがあります。ただし、基準価額の変動要因は以下に限定されるものではありません。

主な変動要因

資産配分リスク	資産配分リスクとは、複数資産への投資（資産配分）を行った場合に、投資成果の悪い資産への配分が大きかったため、投資全体の成果も悪くなってしまうリスクをいいます。本ファンドは、投資対象ファンドへの投資を通じてわが国及び海外の株式・債券・オルタナティブ資産（ヘッジファンド、コモディティ、リート（不動産投資信託））・短期金融商品に資産配分を行います。配分比率が高い資産の価値が下落した場合や、複数の資産の価値が同時に下落した場合、本ファンドの基準価額はより大きく影響を受け損失を被ることがあります。
株価変動リスク	一般に株価は経済・政治情勢や発行企業の業績等の影響を受け変動しますので、投資対象ファンドが組入れる株式の価格が変動し、本ファンドの基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。
為替変動リスク	為替レートは、各国・地域の金利動向、政治・経済情勢、為替市場の需給その他の要因により大幅に変動することがあります。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向にすすんだ場合、本ファンドの基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。
債券価格変動リスク	債券（公社債等）は、国内外の経済・政治情勢、市場環境・需給等を反映して価格が変動します。また、債券価格は金利変動による影響を受け、一般に金利が上昇した場合には債券価格は下落します。これらの影響により債券の価格が変動した場合、本ファンドの基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。
リート（不動産投資信託）の価格変動リスク	一般にリート（不動産投資信託）が投資対象とする不動産の価値及び当該不動産から得る収入は、当該国または国際的な景気、経済、社会情勢等の変化等により変動します。リート（不動産投資信託）の価格及び分配金がその影響を受け下落した場合、本ファンドの基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。
ヘッジファンドに投資するリスク	本ファンドが投資対象とする「IQ ヘッジ マルチストラテジー トラッカーETF」は「IQ ヘッジ マルチストラテジー インデックス」をベンチマークとして値動きするため、当該インデックスのヘッジファンドマネージャーが採用する戦略等の影響を受けます。これらによって、本ファンドの基準価額は影響を受け損失を被ることがあります。
コモディティ投資リスク	一般にコモディティ価格は商品の需給や金利変動、天候、景気、農業生産、政治・経済情勢及び政策等の影響を受け変動します。これらにより、本ファンドの基準価額は影響を受け損失を被ることがあります。
カントリーリスク	投資対象ファンドが組入れる金融商品等の発行国の政治・経済・社会情勢の変化で金融・証券市場が混乱し、金融商品等の価格が大きく変動する可能性があります。一般に新興国市場は、市場規模、法制度、インフラなどが限定的なこと、価格変動性が大いこと、決済の効率性が低いことなどから、当該リスクが高くなります。
信用リスク	投資対象ファンドが組入れる金融商品等の発行体が経営不安や倒産等に陥った場合に資金回収ができなくなるリスクや、それが予想される場合にその金融商品等の価格下落で損失を被る可能性があります。また、金融商品等の取引相手方にデフォルト（債務不履行）が生じた場合等、本ファンドの基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。
流動性リスク	投資対象ファンドが組入れる金融商品等の市場規模が小さく取引量が限られる場合などには、機動的に売買できない可能性があります。また、保有する金融商品等が期待された価格で処分できず、本ファンドの基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。

投資リスク

その他の留意点

- ・本ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・本ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待される価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。
- ・投資信託は預金や保険契約と異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- ・銀行など登録金融機関でご購入いただく投資信託は投資者保護基金の支払対象ではありません。
- ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間における本ファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。
- ・投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払い戻しに相当する場合があります。
- ・収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

リスクの管理体制

委託会社では、ファンドのパフォーマンスの分析及び運用リスクの管理をリスク管理関連の各種委員会を設けて行っています。流動性リスクの管理においては、委託会社が規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証などを行います。取締役会等は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

委託会社、その他関係法人

委託会社	S B I アセットマネジメント株式会社（信託財産の運用指図、投資信託説明書（目論見書）及び運用報告書の作成等を行います。） 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第311号 加入協会/一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社（ファンド財産の保管・管理等を行います。）
販売会社	※最終頁をご参照ください。（受益権の募集・販売の取扱い、及びこれらに付随する業務を行います。）

お申込みメモ

購入単位	販売会社がそれぞれ定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額（ファンドの基準価額は1万口当たりで表示しています。）
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金単位	販売会社がそれぞれ定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差引いた価額とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目以降のお支払いとなります。
購入・換金申込受付不可日	ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの商業銀行のいずれかの休業日にあたる場合には、購入・換金の受付を行いません。
申込締切時間	原則として午後3時までに販売会社が受付けた分を当日のお申込みとします。 なお、受付時間を過ぎてからのお申込みは翌営業日の受付分として取扱います。 ※受付時間は販売会社によって異なることありますのでご注意ください。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口解約には制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金（解約）の申込の受付を中止すること及びすでに受付けた購入・換金（解約）の申込の受付を取消す場合があります。
信託期間	無期限（設定日：2012年1月23日）
繰上償還	以下の場合等には、信託期間を繰り上げて償還となる場合があります。 ・各ファンドについて、受益権の口数が3億口を下回るようになった場合 ・ファンドを償還させることが受益者のために有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき
決算日	毎年9月14日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年1回決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。 ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わない場合があります。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。 当ファンドは、NISAの対象ではありません。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 ※税制が改正された場合には、変更となる場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家にご確認されることをお勧めします。

追加型投信／内外／資産複合

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入申込金額に3.3%（税抜：3.0%）を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に対して0.3%を乗じて得た額を、ご換金（解約）時にご負担いただきます。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 （信託報酬）	ファンドの日々の純資産総額に年0.484%（税抜：年0.44%）を乗じて得た金額とします。 当該報酬は、毎計算期間の6カ月終了日及び毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。				
	●実質的な負担等				
		2025	2035	2045	2055
	各ファンドの投資対象ファンドの 信託報酬※1	0.1611%	0.1642%	0.1592%	0.1541%
	実質的な負担（概算値）※2	0.6541%	0.6482%	0.6432%	0.6381%
	※1 基本投資比率で運用された場合の信託報酬率（年）であり、実際の組入れ状況により変動します。 また、投資対象ファンドの信託報酬の改定や投資対象ファンドの変更等により変動する場合があります。 ※2 各ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を加味した、投資者の皆様が実質的に負担する 信託報酬率（年）になります。				
その他の費用 及び手数料	ファンドの監査費用、有価証券等の売買委託手数料、先物取引やオプション取引等に要する費用、海外における有価証券等の保管費用等本ファンドの投資に関する費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理等に要する諸費用等（有価証券届出書、目論見書、有価証券報告書、運用報告書等の作成・印刷費用等）が信託財産から差引かれます。なお、これらの費用は、監査費用を除き、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことができません。				

※投資者の皆様にご負担いただく手数料等の合計額については、ファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。上記の費用等については、本書作成日現在の情報であり、今後変更される場合があります。

販売会社一覧

[illegible]

■ 販売会社では、受益権の募集・販売の取扱い、及びこれらに付随する業務を行います。

※1 株式会社SBI証券は上記協会のほか、日本商品先物取引協会および一般社団法人日本暗号資産等取引業協会にも加入しております。

※2 東海東京証券株式会社は、「セブライフ・ストーリー2025」・「セブライフ・ストーリー2045」のみのお取扱いとなります。

本資料のご留意点

○本資料は、S B I アセットマネジメントが作成した販売用資料で、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。○本資料は、S B I アセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。○本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。○投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。○投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。○当ファンドをお申込みの際には、必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。